

## 第 21 期生 KSMS 参加報告

第 21 期生 伊東 大志

### ◆KSMS とは？

KSMS とは、正式名称を“Korean Scholars of Marketing Science”といい、1998 年から開催されている学会です。

例年、KSMS では慶應義塾大学と韓国の延世大学とのジョイントシンポジウムが行われており、小野ゼミからは、9 年前に第 12 期の先輩方が初めて参加されました。新型コロナウイルスの感染拡大により、近年は開催されていなかったジョイントシンポジウムが 4 年ぶりに再開し、小野ゼミ第 21 期生が参加させていただくことになりました。慶應義塾大学からは、他に高橋郁夫ゼミ、清水聡ゼミ、高田英亮ゼミの 4 年生が参加されました。

### ◆発表概要

シンポジウムでは、三田祭論文と同じ内容について、その概要を英語で発表しました。テーマは、“Do consumers prefer sweet or bitter foods after watching a sweet drama?” です。

### ◆発表後記

小野先生から、KSMS に参加してみないかとお話を頂いた際に、第 21 期生一同は、海外での発表の機会



タッカンマリを食べる小野先生と第 21 期生  
(小野先生の右隣から時計回り順に、  
國吉、山田、中越、長谷川、加藤、臼井、  
今野、著者)

を頂いたことに期待で胸が膨らむ一方、不安な気持ちも抱えていました。小野先生からお話を頂いたのは 9 月の下旬頃で、三田祭論文の執筆にかなり苦戦していた時期です。日本語でも正しく自分たちの論文のロジックを伝えることが難しいのに、それを英語で伝えることができるのだろうか、と漠然とした不安を抱えながらも、これ以上の成長の機会はない、挑戦してみよう！と、参加を決意しました。

夏休みが終わってからは、三田祭論文執筆、KSMS、入ゼミ活動の 3 つに並行して取り組み、第 21 期生は忙しさに翻弄され、あっという間に韓国への出発日を迎えました。韓国での海外発表に加え、観光も楽しみたいと考えていた私たちは、余裕を持って 3 泊 4 日の旅行スケジュールを組み

ました。初日は、夜遅くに韓国に到着し、2日目に先生と合流しました。何度も韓国を訪れている小野先生に案内をして頂きながら、散策をしました。夜には、先生に教えていただいた東大門のタッカンマリのお店に行きました。そこで食べたタッカンマリの美味しさに私達は思わず感動してしまいました。

格別に美味しい夜ご飯を食べ終わり、いよいよ翌日に控える KSMS 発表本番に向けて、宿に帰り発表練習を行いました。小野先生には、深夜3時頃まで発表練習に付き合ってもらい、どうすれば私達の考えているロジックが伝わるのかを議論しました。私達の論文のロジックの重要なポイントである解釈レベル理論やアクセス性という概念を、学者の方々に理解してもらうために、短く具体例を用いながら説明することに苦戦しました。それでも、どうか一つの文章の一単語まで精査しながら発表原稿、およびスライドを作り上げ、万全の状態準備を終えることができました。

KSMS 当日は、前日の小野先生との発表練習のいかにもあり、無事に私達の論文の面白さとロジックを学者の方々に伝えることができました。発表を聞かれた学者の方々は、私達の研究内容が、甘い恋愛をテーマにした珍しいものであるにも関わらず、論理が通っていることを非常に高く評価してくださいました。興味を持ってくださった学者の方々は、私たちの研究に対してたくさんの意見や質問をしてくださりました。国際的な学会で自分たちの研究を発表し、それについて海外の学者の方々に意見をいただくことができ、学びの多い貴重な経験を得ることができました。



小野先生と KSMS 発表後の第 21 期生  
(左から順に、加藤、中越、國吉、山田、  
長谷川、著者、白井、今野)



レセプションパーティにて  
(第 21 期生國吉と小野先生)

発表後には、会場であった高麗大学からバスに乗りジャズバーへ移動し、レセプションパーティに参加しました。それぞれ、海外の学生や学者の方々と名刺を交換したり、英語で交流を図ったりしていました。同じくマーケティングを学ぶ身でありながら、異なる文化背景を持つ方々との交流は、わたしたちにとって非常に新鮮な体験でした。

最後に、私たちの研究を海外の場で発表し、多くの学者の方々と意見を交わすという貴重な経験ができたのは、夏から発表の直前まで昼夜を問わず熱心にご指導してくださいました小野先生のおかげです。この場を借りて、心より感謝申し上げます。また、ご自身の研究でお忙しい中、様々な鋭いご指摘をくださった大学院生の北澤さん、そしていつでも優しくたくさんのご指導をくださった第 20 期生の先輩方にも、心より感謝申し上げます。